



Talend Open Studio for ESBリリースノート

7.1.1

目次

Copyright	3
システム要件	5
Talend Open Studio for ESB: 新しい機能	6
ESB: 新しい機能.....	6
Talend Open Studio for ESB: バグ修正	7
Talend Open Studio for ESB: 非推奨および削除されたアイテム	8
ESB: 非推奨および削除されたアイテム.....	8
Talend Open Studio for ESB: 既知の問題と制限事項	9
ESB: 既知の問題と既知の制限事項.....	9
Talend Open Studio for ESB: 移行	11
ESB: 6.x.xから7.1.xへの移行.....	11
Talend Open Studio for ESB: ヒントと注	12
ESB: ヒントと注.....	12
[Documentation] (ドキュメンテーション)	13
欠陥と問題点のレポート	14

Copyleft

7.1.1に対応しています。以前のリリースの更新版となります。

公開日:2019年10月15日

このドキュメントの内容は公開の時点で正確なものです。

ただし、オンライン([Talend Help Center](#))で最新の更新バージョンが入手できる場合があります。

このドキュメントは、クリエイティブコモンズ公共ライセンス(CCPL)の条件の下で提供されています。

CCPLに準拠した許可事項および禁止事項の詳細は、<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.0/>を参照してください。

商標について

TalendおよびTalend ESBはTalend, Inc.の商標です。

Talend、Talend Integration Factory、Talend Service Factory、およびTalend ESBはTalend, Inc.の商標です。

Apache CXF、CXF、Apache Karaf、Karaf、Apache Camel、Camel、Apache Maven、Maven、Apache Syncope、Syncope、Apache ActiveMQ、ActiveMQ、Apache Log4j、Log4j、Apache Felix、Felix、Apache ServiceMix、ServiceMix、Apache Ant、Ant、Apache Derby、Derby、Apache Tomcat、Tomcat、Apache ZooKeeper、ZooKeeper、Apache Jackrabbit、Jackrabbit、Apache Santuario、Santuario、Apache DS、DS、Apache Avro、Avro、Apache Abdera、Abdera、Apache Chemistry、Chemistry、Apache CouchDB、CouchDB、Apache Kafka、Kafka、Apache Lucene、Lucene、Apache MINA、MINA、Apache Velocity、Velocity、Apache FOP、FOP、Apache HBase、HBase、Apache Hadoop、Hadoop、Apache Shiro、Shiro、Apache Axiom、Axiom、Apache Neethi、Neethi、Apache WSS4J、WSS4JはApache Foundationの商標です。Eclipse EquinoxはEclipse Foundation, Inc.の商標です。HypericはVMware, Inc.の商標です。NagiosはNagios Enterprises, LLC.の商標です。

すべてのブランド、商品名、会社名、商標、およびサービスマークは各所有者に帰属します。

ライセンス契約

このドキュメントに記述されているソフトウェアは、Apache License、バージョン2.0 (以下「本ライセンス」という)の下でライセンスされています。本ライセンスを遵守せずに、このソフトウェアを使用することはできません。ライセンスのコピーは、<http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0.html>で取得できます。当該の法律による要求または書面での同意がない限り、本ライセンスの下で配布されるソフトウェアは、「現状有姿」で、明示または暗示にかかわらず、あらゆる保証あるいは条件なしで提供されます。ライセンスの下で許可および制限を適用する特定の言語のライセンスを参照してください。

本製品には、AOP アライアンス(Java/J2EE AOP標準)で開発されたソフトウェア、ASM、AntLR、Apache ActiveMQ、Apache Ant、Apache Avro、Apache Axiom、Apache Axis、Apache Axis 2、Apache Batik、Apache CXF、Apache Camel、Apache Chemistry、Apache Common Http Client、Apache Common Http Core、Apache Commons、Apache Commons Bcel、Apache Commons JXPath、Apache Commons Lang、Apache Derby Database Engine and Embedded JDBC Driver、Apache Geronimo、Apache Hadoop、Apache Hive、Apache HttpClient、Apa

che HttpComponents Client、 Apache JAMES、 Apache Log4j、 Apache Lucene Core、 Apache Neethi、 Apache POI、 Apache Pig、 Apache Qpid-Jms、 Apache Tomcat、 Apache Velocity、 Apache WSS4J、 Apache WebServices Common Utilities、 Apache Xml-RPC、 Apache Zookeeper、 Box Java SDK (V2)、 CSV Tools、 DataStax Java Driver for Apache Cassandra、 Ehcache、 Ezmorph、 Ganymed SSH-2 for Java、 Google APIs Client Library for Java、 Google Gson、 Groovy、 Guavaが含まれています: Java、 H2 Embedded Database、 およびJDBCドライバー用のGoogle Coreライブラリ、 HsqlDB、 Ini4j、 JClouds、 JLine、 JSON、 JSR 305: Annotations for Software Defect Detection in Java、 JUnit、 Jackson Java JSON-processor、 Java API for RESTful Services、 Jaxb、 Jaxen、 Jettison、 Jetty、 Joda-Time、 Json Simple、 MetaStuff、 Mondrian、 OpenSAML、 Paracell JDBC Driver、 PostgreSQL JDBC Driver、 Resty: Java、 Rocoto、 SL4Jのための単純なHTTP RESTクライアント: Java用のシンプルなLogging Facade、 SQLite JDBC Driver、 Simple API for CSS、 SshJ、 StAX API、 StAXON - JSON via StAX、 Talend Camel Dependencies (Talend)、 The Castor Project、 The Legion of the Bouncy Castle、 W3C、 Woden、 Woodstox : High-performance XML processor、 XML Pull Parser (XPP)、 Xalan-J、 Xerces2、 XmlBeans、 XmlSchema Core、 Xmlsec - Apache Santuario、 Zip4J、 atinject、 dropbox-sdk-java: Dropbox Core API用のJavaライブラリ、 google-guice。各ライセンスの下でライセンスされています。

システム要件

インストールとシステムの要件については、Talend Help Center (<http://help.talend.com>)で『Talendインストール&マイグレーションガイド』を参照して下さい。

Talend Open Studio for ESB: 新しい機能

ESB: 新しい機能

フィーチャー	説明
OpenJDKのサポート	Talendでは、Oracle JDKに加えて、データサービスとルートを生成、実行、ビルドするためにOpenJDK 1.8をサポートしています。
ESBユースケースの継続的インテグレーションおよびデプロイ	継続的インテグレーションおよびデプロイ(CI/CD)が、ESBデータサービスとルートに使用できるようになりました。Talend CI Builder Mavenプラグインを使用して、データサービスとルートをビルド、パッケージ、およびデプロイすることができます。デプロイゴールのターゲットとして、Sonatype Nexus 2 / 3とJFrog Artifactoryがサポートされています。
SOAP/JMSに対応したメッセージングブローカー	<ul style="list-style-type: none">• Apache ActiveMQ 5.15.5• IBM WebSphere MQ 7.5

Talend Open Studio for ESB: バグ修正

新しい機能に加えて、全製品に細かな改善と重要なバグ修正が施されました。個別の問題については、バグ追跡システムで対応する変更ログを参照して下さい。

Module (モジュール)	変更ログ
ESB	https://jira.talendforge.org/issues/?filter=28406

Talend Open Studio for ESB: 非推奨および削除されたアイテム

ESB: 非推奨および削除されたアイテム

[Item] (アイテム)	説明
BPM Expose Process as Service	Bonita BPMプロセスから直接RESTまたはSOAPサービスを作成する機能へのサポートは、7.0.1以降、非推奨となります。
BPM ESBコネクタ	Bonita BPM用のESB REST、SOAPデータサービス、およびESB Routeコネクタは、7.0.1以降、非推奨となります。
SAMサーバー	SAMサーバーは7.0.1以降、非推奨となります。これは、Talend ESBの将来のリリースでSAMとイベントロギング機能を1つのソリューションにまとめる予定であるためです。Talend Runtimeでサービスアクティビティイベントをキャプチャーする機能は、引き続き有効です。ただし、キャプチャーする方法とサーバー側で転送および処理を行う方法が将来のバージョンで変更される予定であり、そのときには明示的なSAMサーバーの提供を終了します。
SWAGGER UI	RESTfulデータサービスおよびルート(tRESTRequest / cREST)内のSWAGGER UIは非推奨となりました。APIデザインとテストで類似する機能を提供する予定です。将来、7.xバージョンのTalend Cloudには、製品ポートフォリオも追加されます。

Talend Open Studio for ESB: 既知の問題と制限事項

ESB: 既知の問題と既知の制限事項

未解決の問題を記載した完全なリストは、JIRAバグ管理ツールを参照なさってください。

<https://jira.talendforge.org/issues/?filter=28368>

すべてのESBユースケース(ルート、REST、およびSOAPデータサービス)でJava 8が必要です。

Studio

[Limitation] (制限事項)	説明
Java PSUはサポートされていません	<p>TalendはJava CPUバージョンでのみサポートされています。Java PSUではサポートされていません。</p> <p>一部のユーザーから、Talend StudioでJava PSUバージョン(jdk8_u92など)を使用したときに問題が発生したが、Java CPUバージョン(jdk8_u91など)に戻すと問題が解決したというレポートがありました。</p> <p>次も参照して下さい: http://www.oracle.com/technetwork/java/javase/cpu-psu-explained-2331472.html</p>
WS-I Basic Profile準拠のWSDLドキュメントのみがサポートされています	<p>Talend Studioで使用するには、WSDLサービスの説明はすべて、少なくともWS-I Basic Profileに準拠している必要があります。『http://ws-i.org/deliverables/workinggroup.aspx?wg=basicprofile%20for%20more%20information』を参照して下さい。他にも使用できるWSDLドキュメントがあるかもしれませんが、失敗する可能性は高くなります。</p>
tRunJobは制限付きでサポートされています	<p>tRunJobコンポーネントは制限付きでサポートされています。すなわち、S4 (マイナー)サポートケースのみ受け入れられ、パッチの提供はありません。データサービスとルート(cTalendJobを使用)内でtRunJobを使用する場合、サポートは"ベストエフォート"ベースでのみ提供されます。ほとんどの場合、クラスローディングの問題があり、これは解決できる場合もありますが、いつも解決できるわけではありません。</p> <p>これは、tRunJobがサービス/ルートスタイル(ESB)のデプロイで機能するように設計されていないためです。そのため、これを使用する場合は、うまくいくケースも多々あるものの、正規のサポートを受けることができません。過去にtRunJobを使用した方には、ジョブデザインにジョブレットを使用するよう切り替えることをお勧めします。</p> <p>DIと非ESBのユースケースでは依然として有用なコンポーネントであり、今後もこれまでと同様、フルサポートを受けることができます。</p> <p>さらに、[Use dynamic job] (ダイナミックジョブの使用)オプションはESBルートまたはデータサービスにおいてまったくサポートされていません。</p>

問題	対処法
Route Builder Beansをパッケージ内で編成することができない[TESB-3701] ルートビルド内のBeansは、ルートビルダールートのJavaコードを追加するために使用できます。ただし、現在はすべてのBeansが1つのパッケージ内に置かれています。	なし
XML payloadのコンテンツは、トレースモードでもデバッグモードでも完全に表示されません データサービスジョブをトレース/デバッグモードで開始するときに、フローのドキュメントフィールドのコンテンツが完全に表示されません。XML payloadの最初の行だけが表示されます。	XMLデータを表示する必要がある場合は、tLogRowコンポーネントをモデル内の任意の場所に置きます。Talend Studioではこのコンポーネントを無効にすることもできます。そのため、Talend Studio内でテストするためには有効にし、エクスポートまたはパブリッシュするためには無効にすることができます。
CI BuilderのMavenプラグインによってビルドおよびデプロイされるデータサービスとルートを制限するために、ESB用のCIにフィルターを適用することができます。ただし、ルートがcTalendJobを使用するときには、ジョブとルートがどちらもフィルターの一部である場合にのみ機能します(条件)。	ジョブにルートと同じ名前を付け、詳細をルート名の後ろに追加する方法を推奨します。そうすることで、ルートとジョブが同じ開始名を持ち、この部分的な名前にフィルターが適用されます。または、この制限がないプロジェクト全体をビルドする方法もあります。

ランタイム

問題	対処法
OSGiコンテナが、system.err / system.outに送信されたメッセージのログに失敗する [TESB-11603] tesb.logファイル内に、system.errまたはsystem.out経由で送信されたメッセージがまったく表示されません。	この問題が発生した場合は、system.errと同じシナリオをコンソールモードで実行します。すると、system.outがコンソールに表示されます。

Talend Open Studio for ESB: 移行

ESB: 6.x.xから7.1.xへの移行

Studio

[Item] (アイテム)	説明
ESB Studioのアップグレード	ESB Studioを新たにインストールする必要があります。6.xまたは7.0プロジェクトをローカルの6.xワークスペースからエクスポートし、ESB Studio 7.1.xを使用してプロジェクトをインポートする必要があります。
Studioプロジェクトのアップグレード	Studioプロジェクトは手動による移行を行わずに使用できます。データサービス、ジョブ、およびルートがESB Studio内に開くと、変更の必要なコンポーネントは自動的にアップグレードされます。

ランタイム

[Item] (アイテム)	説明
ESB Runtimeのアップグレード	ESB Runtime (OSGiコンテナ)を新たにインストールする必要があります。詳細は 互換性に関する注 (11ページ)を参照して下さい。

互換性に関する注

[Item] (アイテム)	説明
Talend ESBコンテナの移行	既存のデータサービスまたはルートを新しい7.1.xのコンテナで実行する場合は、最新のコード変更を使用するようにStudioモデルを再ビルド、再パブリッシュ、および再デプロイする必要があります。 Talend ESBコンテナ6.xと、Talend ESB Studio 6.xによって生成されたデータサービスとルート、および7.1.xのTalend ESBインフラストラクチャーサービスを混在させるインストールと使用もサポートしています。
Studioルートの移行	6.3.1以降、cMessageEndpointライブラリはESB Studioに付属していません。6.3.1よりも古いESB Studioによって生成されたルートを使用する方法の詳細は、<Studio_Home>/esb/Readme_cMessageEndpoint_Libraries.txtを参照して下さい。
SAPとTalend Runtimeの接続プールを使用するStudioジョブの移行	Talend Runtime 7.1では、共有接続プールにSAP_CONNECTION_POOLという固定名が必要です。変更した場合は、この固定値を使用するようにモデルを更新する必要があります。

Talend Open Studio for ESB: ヒントと注

ESB: ヒントと注

Studio

[Item] (アイテム)	説明
cAMQPではクライアントIDの設定が必要です	<p>Route BuilderでcAMQPコンポーネントを使用する場合は、クライアントIDを必ず、他のルートで使用していないユニーク値に設定して下さい(cAMQP詳細設定のclientIdヘッダー)。cAMQPベースの複数のルートが同じTalend Runtimeコンテナ内で実行され、クライアントIDが設定されていない場合は、次のような例外が発生します。</p> <pre>org.springframework.jms UncategorizedJmsException: Uncategorized exception occurred during JMS processing; nested exception is javax.jms.JMSEException: Broker: ブローカー: localhost - Client: tlnd-spappala(6968):2 already connected from tcp://127.0.0.1:49729</pre>

ランタイム

[Item] (アイテム)	説明
ESB Containerをコピーすると予期しない動作が発生する場合があります	Talend Runtimeコンテナは、起動後に別のディレクトリまたはマシンにコピーすることができません。必ず、製品に付属しているコンテナを使用することをお勧めします。

[Documentation] (ドキュメンテーション)

Talend Help Center

Talend製品を最大限に活用する方法は、Talend Help Center <http://help.talend.com>にアクセスしてご覧いただけます。

未解決の問題

未解決の問題を記載した完全なリストは、JIRAバグ管理ツールを参照なさってください。

<https://jira.talendforge.org/issues/?filter=18375>

欠陥と問題点のレポート

有効なサポート連絡先を持つTalendの顧客として、Talendオンラインヘルプデスクをご利用いただけます。または、連絡先に記されている電話番号と電子メールアドレスを使用して、顧客サポートにお問い合わせいただけます。

多くの場合、以下の情報をご提供いただく必要があります。これは、お客様の問題を素早く診断するのに役立ちます。

- お使いの製品とバージョン(例: Talend Data Fabric 7.1.1)
- オペレーティングシステム(例: Windows Server 2008 R2 SP1 (64bit))
- 使用しているJava Platform JDK / JREのバージョン(例: ORACLE JDK 1.8.0_161)
- ログファイルおよび/またはスクリーンショット

また、テクニカルサポートチームが十分な情報に基づいて支援できるように、少なくとも以下について詳しく説明して下さい。

- 問題が発生した時点までの操作
- 想定していた結果

サポートヘルプデスクに加えて、コミュニティサポートツールもご利用いただけます。

- [Talendコミュニティ](#)。
- [Talend Bug Tracker](#)もご利用いただけます。
- 関連する契約で提供させていただいているサービスレベルアグリーメントに基づいて処理されるのは、Talendサポートヘルプデスク内のいずれかのTalendサポートチャンネルを通じて作成されたケースに限られます。